

出典：『TIME』 Vol. 150 1997年8月25日号 p 46～p 53

プライバシーの侵害 (Invasion of Privacy)

私たちが一人である権利は、弟がついてくるような足取りで次第に少しずつ失われてきている。それでもまだ見返りがあるし、全てがダメだというわけではない。ジョシュア・クイットナー著

これまで長い間ずっとプライバシー、つまりその権利とか、それがどのように今失われつつあるのかとか、そしてまた私たちがいかに一層コンピュータ化され、不十分な統制がなされ、過剰に侵入がなされ、プライバシーを奪われる世界を目指しているかといったことについて、詳しく研究することができないでいた。

つまり、私には平均的なジョンQよりはこのことについてもっと考える理由があったのだろうと思う。例えば、数年前か、消費者用電化製品店でクレジット・カードの申し込みをしたのだが、その後で何者かが私の名前や重要なナンバーを入手して、複製カードを入手しようとした。その何者かが3,000ドル支払請求書の状況をつくったのだが、クレジット・カード会社の不正行為部門の親切な女性が厳格なデジタル・ディスパッチで処理してくれた。(私は電話について短いレポート提出をして、1セントも失わずその話は終わりになった。)

私はまたオンラインの出入りをかなり多く繰り返しているが、時々ネットで何者かが私を装い、偽って私のEメール・アドレスを使ったり、掲示板にバカなスタッフを配置したり、「ビアンカズ・スマック・シャック」のおしゃべりコーナーと結んでクイットナーらしからぬ恐ろしいマナーで振る舞っていたりしている。わずらわしいものだとは思いますが、仕舞いにはその偽物のクイットナーにも飽きたのか消えてしまうので、私の評判は依然として前と変わらず過ごしている。

私はタイム社の巨大情報モールで「パスファインダー」というニュース・ディレクターとしてウェブ生活をしているので、私たちが侵入世界にずっと深く入り込んでいるということを一一般の多くの人たちよりもよく知っているといいたい。

マット・マウリンによるタイム誌のためのイラスト

P48

私たちは皆、コンピュータでウェブサイトを見るときはいつも、それがちょっとした「ブラウジング (非常に受け身的に思えるのだが)」の行為でしかなくとも、10年前は想像できなかったような方法で公開されている。このことは私自身が「ウォッチャー」なので分かっている。見知らぬものが私のウェブサイトを覗きに来ると、彼らが何者かということは全く分からなくても、肩越しに彼らが何を見ているかということや特定のページをどのくらい長く見ているかということ、パスファインダーでたどっていける。

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

数年前、マーレーの幽霊のように電話機によって悪夢の一端を見せてくれなかったら、何ら私も悩むようなことはなかっただろうと思う。

1995年の週末の感謝祭のことであったが、何者か（ちょうど私と妻でコンピュータ・ハッカーについての本を書き終わったところだったので、多分その本のあら探しをしたのだろう）が州外の留守番電話機に私の家庭電話の番号を教え、何の疑いもない人たちに私だと思わせ非常に失礼なことを言って返答するようということがある。それで、このふざけた奴が典型的なハッカーの態度で彼ら全員（驚いたことに私の母や多くの人に連絡していたのだが）メッセージを残すように言っていた。このことは私の妻や私が何か変だ（どうして水曜日から電話が鳴らないんだ？）と気付いてから、正常な電話サービスの状態を取り戻すまでに数日かかった。

初めは奇妙だと思えたことも、我われのブック・ツアーについての話もしていたのだが、我われの電話線を不正に乗っ取った侵入者はツアーが終わった後も我々を襲い続けてきた。これがその後6か月間も何度も繰り返し襲撃してきたのである。電話会社は手の打ちようがないようだった。そのセキュリティの人が何度か別の使用されていない番号に替え、暗証番号も設定してくれたが、侵入者はラインをたどり、それも突破し続けた。

もしわれわれのフィクション映画に出てくるハッカーのように根から悪意があり絶大な力のある者たちだったら、多分もっと悪いやり方で私のプライバシーを脅かすことができたであろう。私のクレジット格付け破壊をしていたであろう。私の電話の話を盗み聞きしたり、Eメールを盗み取ったり、金を借りたり、健康保険をカットしたり、私のソーシャル・セキュリティ番号を抹消したりできただろう。「ザ・ネット」のサンドラ・ブロックのように、一切他の人々との接触を絶ったデジタル不可触選民として地球を彷徨っていただろう。（学校のローンを返済する必要がないとしても、それだけの価値があるかもしれない。単なる考えにすぎない。）

今なお私にはその時気持ちを害され、鉄砲水に巻き込まれた小魚のような無力だったことを覚えている。何者かが私や家族のプライバシーの世界に入り込み、私や当局も何もできなかった。それは私がこれまで味わったテクノロジーのイピファニー（神の示現）みたいなものだった。そして、私が自分自身のデジタル地獄を見せられた時、もう私やあなたのプライバシーが大なり小なり少しずつ失なっているような気がした。

電話をコントロールできない、そんなことは勿論ちっぽけなことにはすぎない。結局、私たちのほとんどのものは自由意思で電話番号やアドレスを提供していて、ホワイトページ（個人別電話帳）リストに掲載させているが、私たちはそれ以上のことをしているのである。私たちが銀行カードをATM機に入れたりハイウエーの自動走行レーンをドライブしたりしているときはいつでも私たちの所在地を登録している。

現在はまるで精神病患者の時代に生きているようだ。個人の境界というものについての私たちの考えが非常にあいまいになっている。シェリー・タークル、マサチューセッツ工科大学

P49

(本文続き) ニューヨークに住んでいたり働いたりしていれば、私たちは毎日平均 20 回は監視カメラで撮られている。メールによる注文やコマーシャルのウェブサイトで買い物したりすると、私たちがどんなことに興味を持ちどんな買い物をするかことを明らかにしている。

私はあなたのことを知らないが、安全なパーキング場のセキュリティとか、必要な時のキャッシュの利便性とか、相手が興味を持ちそうなものを満載したカタログを家庭に送ってくれるメール・オーダー・サービスとか、確実な見返りが保証されるので私はそうしたことを喜んでやっている。私たちはプライバシーを失ったらどうなるかというその恐ろしさを感じている一方で、(世論調査によれば) 私自身もそうであるが、そうしたことに対しては同時に相反した気持を抱いているのではないかと思う。

ポピュラー・カルチャーというのは、私たちの生活の最も個人的な部分にクリーク・ライト(撮影の時に使う強いライト)を当てているのだが、大抵の人がそうしたことをやってきている。私たちが本当に望んでいるものは放っておくべきだというのなら、アメリカのテレビ番組「何でも語る」が保持し続けている人気について説明して欲しい。回顧録や近親相姦、精神異常、病気といった本がベストセラーのリストのトップに並んでいる。カクテル・パーティーで全く見ず知らずの人たちが、最も不安にさせるような汚いやり方で詳細を語っている。それはどういうことなのか。

マサチューセッツ工科大学の社会学の教授であるシェリー・タートル氏は「現代は精神分裂病の時代だ」と言い、いかにコンピュータとオンライン・コミュニケーションが社会を変えているかということについて何冊かの本を書いている。彼女は今や我々のカルチャーが一種の大衆アイデンティティ危機を迎えていて、数千万人規模の地球村というプライバシーや親密性にすぎりつこうとしていると信じて疑わない。「我々は個人の境界というものについての私たちの考えが非常にあいまいになっている」と彼女は言う。

今物事がクレージーのように見えるが、私と同じ様に誰しもが全てケーブルでつながれたとしたらどれだけクレージーになるだろうかということを考えてみるとよい。私たちは今や1世紀前の電化時代に比べて遥かに速く、しかも少なくとも意味のある結果が求められているような地球規模の相互接続という世界の真っ只中に置かれている。もし、世界のコンピュータに保存されている全ての情報をインターネットで誰しもが入手できるとしたらどうということになるだろうか。所有者は誰なのか。誰がそれをコントロールするのだろうか。その悪用から誰が守ってくれるのだろうか。

スケールの小さい非道なことは毎日発生している。例えば、医療プライバシーだが、アメリカ合衆国の患者の権利を守るための全国連合会の会長を務めるドクター・デニズ・ナーゲルに聞いてみるがよい。そうすれば、ビッグ・ブラザーも顔を赤らめるような虐待のリストを挙げてくれるだろう。2年前にどのようにして有罪判決を受けた強姦犯人が1,000ページにも及ぶコンピュータ化した記録をパラパラとめくって可能性のありそうな犠牲者を探し求めていたかという話(9歳の女の子の父親が、男の使ったIDカードをたどって病院を突き止め、逮捕された)について語ってくれるだろう。銀行員がメリーランド州の保険委

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

員会のがん患者のリストを引張り出し、銀行の顧客名とクロスチェックをし、そして夫婦のローン契約を無効にした話、またサラ・リー・ベーカーがシグナの子会社であるラブレース・ヘルス・システムズと共同して抗うつ病で利益を出せそうな労働者を見つけ出すために勤務成績報告書と職員の健康診断章とマッチさせたかということについても話してくれるだろう。

サラ・リーのあら探しをしているわけではない。少なくともフォーチュン掲載 500 社の 3 分の 1 が雇用決定をする前に定期的に医療情報のチェックを行っている。

P50

テクノロジー

毎日の出来事がスパイされており、少しずつあなたの生活のプライバシーが侵されている。

バンク・マシーン

銀行自動支払機を使うたびに、銀行はその時間や日付、取引場所を記録している。

処方ドラッグ

ドラッグを買うのに会社の健康保険を使用すれば、あなたの雇い主はその詳細を入手することができるだろう。

従業員の ID スキャナー

オフィスに入るのに磁気読み取りパスを使用しているなら、あなたの所在が自動的に記録されている。

ウェブのブラウズ

サイトの多くは訪問者に「マジック・タグ」をつけ、あなたが何を見て、いつ楽しんだかを記録している。

携帯電話

電話をかければ盗聴され、あなたのアクセス・ナンバーは警察のスキャナーで無断盗用されることが可能である。

クレジット・カード

クレジット買いする全てがデータベースに残り、中でも警察がそれを見ることができる。

投票登録

アメリカ合衆国のほとんどでは、投票者の登録記録が公けにされているしオンラインになっている。一般にあなたのアドレスや生年月日がリストアップされている。

電話の呼び出し記録

電話会社はあなたが誰に電話をし、誰から電話がかかってきたかということ記録するのに裁判所の命令を必要としていない。

スーパーマーケット・スキャナー

アメリカの多くの食品店ではディスカウント・クーポン券の登録をさせているが、これを使用して何を購入したかが判る。

(本文続き) そしてそれは、雇用主や保険会社があり得る欠陥を求めてDNAテストを始める際に私たちを待っていることとは全く比較にならない。これはこじつけだろうか。昨年1月にジャーナル「科学とエンジニアリング倫理」で発表されたケース・スタディの200項目以上で、遺伝子検査の結果に反する差別視が行われていたと報告されている。彼らは皆実際には病気ではなかったが、DNA分析ではいつかは病気になるだろうというのである。「テクノロジーが倫理の先を行っている」とナーゲル氏は言うっており、これにはクリントン行政もはっきりと同意している。現在そうした悪用に対する診療記録や医療保険を守る国の法律が初めて提案されている。

プライバシーに対する懸念は、アメリカに限られている話ではない。香港では警察が日常的に示威運動をビデオテープに録画している。イギリス規則であった昨年はまだそれほどではなかったが、現在は北京の怒りを招くことを恐れている威圧的な自称抗議者に任されている。その一方でシンガポールでは、ますますコンピュータ化されていく文化というものが個人のプライバシーに脅威をもたらしているという意識を生んでいる。最近口座のチェックをしようとして年金事務所に行ったシンガポールの女性は、対応していた職員のコンピュータのモニターを(彼女は見るとはなし見てしまったのだが)見て驚いてしまった、そこにはそれまでの3か月間に行った彼女の旅行記録も出ていたのである。日本でも同様にそうした恐れが出ている。今年の初めに新たに出てきたサーバーカルチャーに関する野村研究所の調査では、日本の回答者の77%にとってオンラインのプライバシー侵害が大きな心配の種になっているということが判った。

しかし、私たちが頻繁に使用し、所有し、そして考えることが容易に知られるものとなるような地点にどのようにして到達したのだろうか。

アメリカでは1950年代一気にスタートし、ソーシャル・セキュリティ・ファンドを管理するために、政府は9桁の認識番号をデータ要素として用い、大きなメインフレーム・コンピュータに記録し始めた。一般市民はそれによる今日以上にフォールディング(折りたたむ)したり、スピンドウリング(編み合わせする)したり、ミューティレイティング(内容を削って骨抜きにする)したりするコンピュータやその命令というものを本能的に嫌った。私たちは番号ではないのである! 私たちは人間なのだ! こうした危機感が1960年代の後半になって生まれたと、コロンビア大学を退職したアラン・ウエスティン教授がその出版した「プライバシーとアメリカ・ビジネス」という季刊報告書の中で述べている。そして、「不法侵

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

入やデータ管理の技術が脆弱な法律や第二次世界大戦以前に築き上げられていた社会的習慣を圧倒するようになった」と。

国民が反感を抱いたので、議会は政府や私企業がどれほどわれわれのことを知る必要があるのかという問題を取り上げた。われわれがなしたことは基本的に「プライバシーの正当な期待」ということで意味するものと再定義するという草案が作成されたとウエスティンは言う。つまり、国民は反抗し、議会は政府と民間企業が私たちについて知ることをどれだけ許されるべきかという問題を取り上げ、プライバシーの権利章典というものの草案作成がなされた。ウエスティン氏は、「基本的に私たちが「プライバシーに対する合理的な期待」の意味を再定義することを目的としていた」と述べている。その結果として生まれたのが、消費者と市民権を明確に定義した新しい法律の一部だった。

(P50 下)

オンライン・ブラウザのトリック

クッキーを見つける

クッキーというのは、あなたを認識しクッキーのウェブサイト結びつける一連のテキストである。コンピュータの検索コマンドを使ってその名前のクッキーファイルを見つけてみるとよい。

クッキーを装備する

ネットスケープもマイクロソフトのブラウザもウェブサイトでクッキーが求められればいつでも警告の選択をするようにしている。こうした方法であなたは自分のことを知られたくない場合には続行拒否をすることができる。

(P51 上)

スイープステイクス (宝くじ)

市場売買する人にはボナンザ (大当たり) のチャンスが設けられている。そこへ行くたびにあなたのポートレートにブラシストロックが加えられる。

サテライト

商業衛星はあなた—それからもしかしたらあなたの伴侶—が入浴しているところを捉えることができる。

自動料金支払い

多くの場所でドライバーはパスで自動料金支払いをしているが、これであなたの所在を教えている。

監視カメラ

銀行や官庁の建物、セブンイレブン、礼拝所にすら設置されていて、ニューヨーク人は1日に20回はカメラに写っている。

メールオーダー

通信販売会社や出版社を含め多くの会社が顧客リストの販売をしている。あなたはどうしてランジェリーカタログが送られてくるのだと思っているだろうか。

Eメール送信

オフィスではEメールが仕事の一部だと考えられている。あなたの雇用主はそれを読むことが許されているし、ボスの多くがそうしている。

デュー・プロセス（正当な法の手続き）のための規定を全く有せず公表されていない未統制の産業だったものは、1970年に通過した最初の公正信用報告法で、徹底して見直された。この新しい法律では、何がクレジットファイルに載っているかを知り、訂正を要求する権利を消費者に与えている。続いて今日に至るまで診療記録の秘密性を保護するアメリカ合衆国法というものがあった財務や健康プライバシー法も制定されている。

ウエスティンが注目しているように、パブリックやプライベート・セクターでは2つの非常に異なった方法を採用している。議会は政府が市民に守るべき記録を伝えることを求める法律を通過させたが、その一方で法で求められていなくても情報自体は自由にされるべきではないということを主張している。プライベート・セクターではそれに応えて、クレジット・カンパニー、銀行、保険、マーケティング、広告など、それぞれの産業に独自のガイドラインを作成させている。

この方法はある点で効果があった。このことはメインフレームがデスクトップ・コンピュータに道を譲った時に現れている。以前、政府のデータベースに保存された情報はかなり入手が困難だったが、今ではデスクトップのPCでオフィス・ネットワークやインターネットにも接続されており、これまで慎重に秘密にされていたデータも僅かいくつかのキーをたたくだけで手が届くようになっている。

突然、ある者が投票登録に対応する車の登録記録を掲載し、それにより身長1.8メートルの共和党員が過去1年間に飲酒運転で逮捕されたとか銃を所持しているといったことを知るかもしれない。魔神は瓶から出てくるだけではなく、みんなの寝室の窓（自分を映画に撮ったりしている大金持ちの窓を除いて）から覗き込んでいるというわけである。

裸のサイバースペース：オンライン個人情報を見出す方法の著者であるキャロル・レイン氏は「多くの人はその存在しているものを知れば驚くだろう」という。2~3時間コンピュータの前に座り、名前とアドレスだけであなたの職業が何で、妻や子供たちの名前や年齢、乗っている車が何で、住んでいる家がどれくらいの価値で、税金をいくら払っているかということを探し出すことができる。レイン氏は有給のインターネット・サーチャーで、既に自

身のプロフェッショナル・グループ「独立情報専門家団体」というのを持っている。彼女の経歴には「今何が起きているか」ということに対する新しい見解が付け加えられており、「私たちが知っている真のプライバシーというものが今やはかないものとなっている」と述べている。

(P51 下)

クッキーを不能にする

WWW.Luckman.com で、その中でクッキーを不能にする無料の「匿名のクッキー」プログラムを入手するとよい。

あなたのボスが知っていることを知る

ネットスケープ・ブラウザについては、ロケーション・フィールドの *about:global* をタイプしたらよい。ここにはあなたが今まで訪ねたところが全て出ている。マイクロソフトのインターネット・エクスプローラーなら、「Go メニュー」を開き「Open Histori」の項目を選ぶと、過去 20 年間にあなたが訪ねた全てのサイトリストが入手できる。また、そのブラウザの「Clean Cache」を選択するとこうしたものを消去することができる。

匿名でウェブをあちこち見てみる

先ず www.anonymizer.com に接続し、プライバシー・カーテンの裏側からウェブを見てみるとよい。無料アカウントならすべての閲覧に 60 秒の遅延を課すが、有料オプションならそうした厄介な制限もない。

あなた自身を守る

■ テレマーケターにはノーという

電話帳に載っていない電話番号を入手するのにお金を払いたくなければ、「電話勧誘は受けません」という呪文を唱えるとよい。一度買い物すると、騙されやすい人というリストに載り、他のマーケターに売られてしまう。

■ 多くのダイレクト・メールやテレフォン・マーケティング・リストからの削除を考える アメリカ合衆国内では下記のところに連絡するとよい。

ダイレクト・マーケティング協会

メール/テレフォン・プレファレンス(優先)・サービス

P. O. Box 9008 (郵便物)

又は P. O. Box 9014 (電話)

Farmingdale, NY 11735

■ できる限り現金支払いをする

クレジットカードの使用を少なくすれば、それだけ第三者があなたの買い物習慣につい

て知ることを少なくできる。

- メール・オーダーによる買い物を慎重にすることである。
多くのメール・オーダーの会社はそのカスタマー・リストを売っている。だから会社に電話してその手続きについてのチェックをしたら良い（カタログが嫌いな場合）。
- 法律によって必要である場合に限りソーシャル・セキュリティ番号を提示する
学校や職場など多くのアメリカ合衆国の団体があなたの ID 番号として使用しているが、拒否するとよい。（専門家たちは、あなたの心配ごとについて当局者に相談してみたら、そうしたやり方はしばしば助けになるものだ、と言っている）
- 保証書に記入したり、懸賞に参加したりする前によく考えてみる
これらはマーケティング担当者向けのデータマインであり、その上ほとんどの製品はあなたの領収書によって保証されている。それにいままであなたは懸賞で何か勝ったことがあるだろうか。
- 「無料血圧診療所」を使用する際は注意するとよい
典型的には、マーケッターや製薬会社があなたのデータを使用している。
- ネットに足跡を残さないようにする
ブラウズをしている際でも監視されている。そして、検索エンジンがあなたの名前ですべて「Usenet」のようなパブリック・フォーラムにあなたを掲示している。

P52

瞬く間に広がる中傷

サイバースペースのゴシップ王であるマット・ドラッジは、ホワイトハウス補佐官は妻を叩いていると8月のEメールで通報した。こつこつ真面目にやっている人たちにとっては悪いニュースである。彼が言ったこの話は初め6万人以上の人々に広がったが本当ではなかった。それで撤回して謝罪した。これで済むのだろうか。

「決して済む話などではない」と補佐官の弁護士であるウィリアム・マクダニエル氏は言う。「インターネットを使用している人たちは同じように制約されず好きなことを何でも言えると思っている」と、名誉棄損でウェブのこのおしゃべり屋を訴える準備をしているところであるが、「訴訟を起こすことで、ドラッジ氏や同じような人たちにこうしたおしゃべりを止めさせることになるだろう」と述べている。

ネットはコンピュータやモデムがあれば誰でもマウスとマウスで主流のメディアと対抗する（ドラッジ氏の出版王国はハリウッド・アパートの居間である）。しかし、ネットの自称調査ジャーナリストは初心者であり、例えば、裁判所や警察に訊いて単なる噂かどうかというようなことを確かめようとはしないだろう。オンラインの他のことも同様に、中傷はあ

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

っという間に広がるが、その理由は人の評判に対するダメージを訂正したりプライバシーを守る方法がなかったりするからだという。

そうした点で最近では多くの有名人がウェブによる中傷の犠牲になっている。例えば、デザイナーのトミー・ヒルフィガーが人種差別で非難されたり、映画俳優のブラッド・ピットの裸で過ごしたバケーション写真が許可なしにオンラインで見られたり、作家のカート・ヴォネガットがお世辞抜きでなく、自分がやったこともない学位授与式スピーチの起草者にされて描かれたりしている。「一旦こうしたちょっとした情報が外に流れると、ほとんど消し去ることは不可能だ」と、アメリカの前国家取引委員会のコミッショナーでプライバシーの救世主でもあるクリスティン・バーニー氏はいう。

「ナンセンスだ」と電子フロンティア財団のスタッフ・カウンセラーをしているマイク・ゴッドウィン氏はいう。

「人々はネットで悪口をいい、何百万という最も近い友人に触れ回る。それがどうしたというんだ。ネットは遊びの場なんだ」とゴッドウィン氏はいう。言葉を換えて言えば、「誰かがあなたを中傷したなら、オンラインで捕まえてやり返せばいい」と。結局のところ、ネットは何十年の間あれやこれやの形で存在してきているが、Aide-v-ドラッジのような名誉毀損の訴訟で裁判にかけるとはできないでいると Godwin は指摘している。-ジョシュア・クイッター

(P51 からの本文続き)

あなた自身を守ることで今すぐできる方法がある。私がやらざるを得なかったようにリストに載っていない電話番号を入手すればよい。クレジットカードはカットし、全て現金支払いにする。フロントガラスで法外な金をとる E-Z パスをやめ、料金所で小銭を払う。公的な目的以外は社会保障や国の ID 番号を見せることを拒否する。あなたはそれを見る権利も全くない人たちがどれだけ見せるようにと言っているかということを知れば驚くだろう。

しかし、私たちがコンピュータ世界とのつながりを全て断ち切るように真面目に言うのは暴漢くらいなものだろう。コンピュータやその広がっているネットワークは状況を伝え、機会をもたらしてくれる。その上力を与えてくれる。それは情報経済を繁栄させ成長させてくれる。それは生活をより容易にさせてくれる。それ故、そこにジレンマがある。

本当の問題は、「私たちがプライバシーを大切だと言っているが、本当に望んでいるのはそれとは全く別物なんだ」と雑誌「有線」の編集長をしているケビン・ケリーはいう。つまり、「私たちはプライバシーを情報に関わるものだと思っているが、実はそうではなく、関係性に関わるものなんだ」と。ケリーがそこで言っているのは、「伝統的な村や小さな町にはプライバシーがなかったし、誰も他の者の秘密を知っていた。そしてそのことが快適だったんだ。私はあなたのことを知っているし、あなたは私のことを知っているという知識の対称性があった」と彼はいう。

「今は誰が私たちのことを知っているのかがわからなくなってしまい、プライバシーが非対称になってしまっている」と。

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

「トリックというのはそのバランスを回復することなんだ」とケリーはいう。驚くにあたらないが、テクノロジーが取り去ったものはテクノロジーで回復させることができると彼も他の人たちも指摘している。

ここで、「マジッククッキー」(Web サイトが訪問者を追跡するために使用するコードのビット)の問題を取り上げてみよう。私たちはパスファインダーにシステムを構築すると、あなたは私たちのサイトにアクセスし、あなたのブラウザのバスケットに希少な鳥のようなものであるというタグをつけたクッキーを落としこむ。私たちはあなたの名前の代わりにそのクッキーを使用するのだが、勿論私たちにも一切分かりません。郵便番号を入力して天気予報を調べる場合は、そのことに注意してください(住んでいる場所や住んでいることを望む時期を教えてくれる)。

株価情報を検索するかどうかでマークする(ただし、フォローしている特定の株式のシンボルをとらえるには線を引く)。あなたが *NetLy News* にやって来たら、私たちはあなたの技術に対してもっている興味を記録し、そして次回あなたが訪問してきたときに、私たちがあなたについて拾い集めたものに従って、モデムやオンライン証券会社、あるいはオハイオ州アクロンにあるレストランの広告を配信することができるようになるということである。

プロセス全体に不快に感じる人たちもいる。「Cookie は、同意なしに消費者を監視する方法であり、これはかなり恐ろしい現象だ」と、「インテリジェントエージェント」として知られているプロファイリングの代替アプローチ・ソフトウェアを提供しているファイアーフライ社の CEO、ニック・グローフは言っている。

(P52 下)

私たちはプライバシーを情報に関わるものだと思っているが、実はそうではなくてそれは関係性に関わる問題である。

雑誌「有線」の編集長、ケビン・ケリー

P53

(P52 の本文の続き)

グローフのようなプライバシー擁護団体、それにオンライン・ブラウザ市場を支配しているマイクロソフト社やネットスケープ社は、クッキー・モンスターというのは彼らがオープン・プロファイリング・スタンダード (OPS) とよんでいるものだという。そのアイデアは、コンピュータ・ユーザーが自分の名前を明かさないうで、オンラインマーケティング担当者に対して自分を識別する電子的な「パスポート」を作成させるようにすることである。ユーザーは自分の興味に合わせてパスポートを調整するので、もし彼がフライフィッシングが好きで、より柔軟な L.L. ビーンのウェブサイトを通してクルージングしているのであれば、パスポートが、例えばローラーブレードの代わりに電子カタログコピーを釣り具に向けて舵をとるということになるだろう。

コンピュータユーザーにとっての利点は、侵入型マーケティング手法への露出を制限し

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

ながら、公開する情報量を決めることができるという点である。ウェブサイト起業家にとっての利点は、彼らが彼らのプライバシーを侵害することなく彼らの顧客の好みについて学べるということである。

しかし、サイバースペースに足跡を残すことについては、多くのオンライン消費者が物怖じする。カリフォルニア州に本拠を置いている企業で、その提供しているプライバシーのレベルに応じてウェブサイト評価を行っているトラステのスーザン・スコット社長は、彼女の会社がスポンサーとなっている調査で、自らの情報を明らかにしないで 41%の回答者が Web ページを終了しているということが判ったと言っている。彼らが情報を提供するときはその約 25%が嘘をついており、「ユーザーはアクセスを望んでいるが、対応は望んでいない」と彼女は言っている。

しかし、もっと悪いことがすでに彼らの E メールに起こっているかもしれない。多くのオフィスシステムは、ユーザーに対して雇用主が自分たちの E メールを監視する権利を持っているということを警告する。今月ウォールストリートの企業にソフトウェアが利用できるようになるが、これは証券違反の証拠をスキャンする人工知能プログラムを通じて、ブローカーと顧客の間の通信を自動的に監視することができる。

ワシントンを拠点とする電子プライバシー情報センターのディレクター、マーク・ローテンバーグ氏は、「テクノロジーが法律の先を行っている」と述べている。彼は国家安全保障局のスーパーコンピュータさえクラックするような非常に強烈なコードで暗号化することで、電子メールのプライバシー保護をするように提唱している。このようなコードは米国内では合法であるが、海外では使用できない。というのも、アメリカの輸出法には違反しないが、テロリストが秘密を守るために使用する可能性があるからである。クリントン政権とコンピュータ業界との間の暗号化をめぐる争いは解決が見られぬままもう何年もの間続いているが、「未来は電子商取引にあるが、それを妨げているのがプライバシーの問題だけだ」とクリントンのネット問題の代表であるアイラ・マガジナー氏は言う。

ローテンベルク氏は、問題を整理するために新しい政府機関が必要だと考えている。「私たちはプライバシー保護法を実施し、連邦機関を統一し、連邦政府のスポークスパーソンとして行動し、そしてプライバシーの利益のために行動するためには新しい法的保護が必要である」と述べている。ワーアーズのケリー氏は反対である。「連邦のプライバシー保護機関は悲惨な状態になるだろう。プライバシーの問題全体に対する答えを出すにはもっと多くの知識が必要だ。あなたを監視しているものについての知識、私たちの間に流れる情報についての知識、特に誰が何を知っていて、その知っていることがどこに行くのかということを知っているもののメタ情報について、より多くの知識が必要だ」と彼は言う。

「私はケリー氏の意見に賛成だ。完全なプライバシーを主張する者は、ユナボマー（大学や飛行機の爆破犯、FBI の命名）のような隠者だけだ。私は世間から切り離されたくもないし、他人に隠すものも何もない。私は、人々が私について知っていることをちょっとコントロールしたいだけだ。私は自分の魔法のクッキーを持っていて、それを食べたいただけなんだ」と。

ウィリアム・ドーウェル氏とノア・ロビション氏/ニューヨーク市およびデクラン・マク

第206回 NPO テクノロジー犯罪被害ネットワーク定例会資料

レー氏とブルース・バン・ウールスト氏/ワシントンの報告から